

(別紙5)

【補助事業概要の広報資料】

整理番号 2024P-074

補助事業名 2024年度 更生保護施設の建築 補助事業

補助事業者名 更生保護法人千葉県婦性会

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

収容定員の増により、宿泊保護の機能を拡充するほか、バリアフリーの居室を設け、特に高齢者や障害者等利用者の利便性の向上を図る。また、「地域交流室」を設け、地域住民に開放するとともに、災害発生時の一時緊急避難先とするなど、刑務所出所者等の保護にとどまらない地域住民の安全・安心の拠点として機能させることを目的とする。

(2) 実施内容

本事業では、老朽化が進んだ既存の施設（定員20名）を解体し、新たに定員を23名に増やした建物を建設しました。新施設は高齢者や障害者にも対応可能なバリアフリー設計とし、すべての利用者が安心して生活できる環境を整備しています。また、相談室を活用し更生保護施設を退所した方々を対象としたフォローアップ支援事業のための、個別相談や生活支援など退所後の社会復帰を支える継続的な支援を行います。本施設は地域に開かれた施設として運営し、地域住民の方々にも利用いただけるよう配慮を行い、地域との交流の機会を創出、多世代が共に過ごせる環境づくりを通じて、安全安心な地域社会づくりに協力していきます。

<https://www.chibaken-kiseikai.org/post-178/>

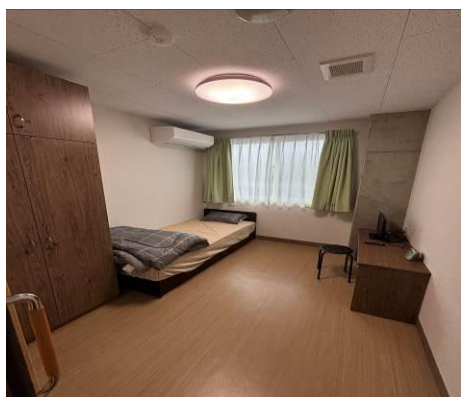


正面玄関



正面玄関の標識表示

(別紙5)



2階 洋室



1階 食堂



廊下



玄関



1階 事務室



2階 地域交流室

## 2 予想される事業実施効果

本事業により、更生保護施設の建替えが令和7年3月に完了し、以下のような多岐にわたる効果が見込まれる。

まず、新施設では23名分の居室を新たに整備し、従前より多くの対象者を受け入れることが可能な体制を構築した。当面の、令和7年5月に2名、6月に4名、7月に2名仮釈放者の受け入れが予定されており、更に更生緊急保護による入所が毎月5名ほど見込まれている。ニーズに十分対応可能な収容能力の向上が図られている。

加えて、高齢者や身体に不安を抱える入所者にも対応すべく、施設内のバリアフリー化を推進した。具体的には、玄関やトイレ等の段差を解消し、1階にバリアフリー対応の居室を設けることで、安全で円滑な日常生活が可能となっている。

また、地域との連携強化を目的として新たに地域交流室を設置し、地域の保護司会や、更生保護女性会等の関係団体が活発に活用している。すでに令和7年4月には中央地区更生保護女性会が総会を開催し、5月には地元町内会の総会が開催されるなど地域に開かれた施設としての役割が着実に果たされつつある。

さらに、今回の建て替えに際しては、地域住民や町内会から多額の寄付をいただいております。これは、千葉県婦性会が地域から厚い信頼と支援を受けていることの賜物である。今後は、地域と一体となって再犯防止を重視した取り組みと処遇の充実を図っていく方針である。

なお、本事業は、新型コロナウイルス感染症の影響に加え、ロシアによるウクライナ侵略の煽りを受けたことで資材や人件費が高騰し、さらに働き方改革の影響も受け、資金調達や工期の面で大きな困難が伴いましたが、建築会社をはじめとする関係者の協力により、当初の計画どおり令和7年3月に無事竣工することができた。

本改築事業により、更生保護施設の機能強化と地域社会との連携促進が同時に実現されたことから、今後対象者の円滑な社会復帰と安全・安心な地域社会の形成に大きく貢献することが期待される

## 3 補助事業に係わる成果物

本事業に係わる印刷物等

落成式 パンフレット 約500枚

当法人機関誌「ふくでん18号」約500冊

千葉日報4月2日 掲載

(別紙5)

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名 : 更生保護法人千葉県婦性会  
(コウセイホゴホウジンチバケンキセイカイ)

住 所 : 〒264-0023  
千葉県千葉市若葉区貝塚町27番地

代 表 者 : 理事長 小畑 哲夫 (オバタ テツオ)

担 当 者 名 : 福祉職員 大須賀 史紀 (オオスカ フミノリ)

電 話 番 号 : 043-231-1610

F A X : 043-231-1621

E - m a i l : [chibakenkiseikai@gmail.com](mailto:chibakenkiseikai@gmail.com)

U R L : <https://www.chibaken-kiseikai.org/>